■ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会

■2018年3月14日開催（参議院議員会館B104会議室）

■参加者

国会議員、厚生労働省、外務省、ストップ結核パートナーシップ日本、ビル＆メリンダ・ゲイツ財団、民間企業等

■内容

日本と世界の結核の現状はどうなっているのだろうか。ストップ結核パートナーシップ日本の森代表理事は、日本は結核の中まん延国であり、2017年の日本の結核罹患率は米国の5倍近くあり、治療開始後すぐに死亡する患者も増えていることを説明した。また、「世界の結核は21世紀に入りゆっくりと減っているが、それでも患者数、死亡者数は微増である」と述べた。厚生労働省は、日本での結核が高齢者と外国人に多いことについて「日本人の若者の間で結核感染の機会が減っている。そのため将来的に高齢になってから発症する人数も減少する。日本での結核は、将来的には外国人中心になるのではないか」と述べた。さらに日本では外国人の長期ビザ取得時に結核に罹患していないことを証明させるといった方法が現在検討されていると述べた。大塚製薬、栄研化学、極東製薬工業、タウンズ、ニプロの各日本企業が、結核治療と診断に関する自社の事業について説明し、国会議員を含む参加者は、結核対策の現状について情報を共有した。